

Meyer, Ferdinand, *Die evangelische Gemeinde in Locarno, ihre Auswanderung nach Zürich und ihre weitem Schicksale*, 2 Bde., Zürich, 1836  
の巻末索引について（其の1）

吉田 隆

はじめに

これまで事例研究として整理することに恵まれた「信仰の亡命者ロカルノ人とチューリヒの産業発展」をテーマとする研究は、学生の頃から折に触れて、いまだに読みなおしている古典・名著の一冊であるマックス・ヴェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（Weber, Max, *Die protestantische Ethik und der Geist des Kapitalismus*, Gesammelte Aufsätze zur Religionssoziologie, B. 1, Tübingen, 1920, 大塚久雄訳、岩波書店、1989年、以下『倫理』論文）のひとつの断片や、また欧米やわが国の優れた研究から誘発されたことが契機となっている。

そして、このテーマにもとづいて、「信仰の亡命者の周辺（1）—チューリヒの場合—」（神奈川大学職員会議『神奈川大学職員会議紀要』1992年、創刊号、62-68頁）、「ロカルノ人とチューリヒの産業発展」（梅津順一／諸田實編著『近代西欧の宗教と経済』同文館、1996年、第2章65-86頁）で拙論を報告した。

参照した邦文の文献では、森田安一著『スイス中世都市史研究』（山川出版社、1991年）に重点的に依拠し、欧文の文献では、Meyer, Ferdinand, *Die evangelische Gemeinde in Locarno, ihre Auswanderung und ihre weitem Schicksale: Ein Beitrag zur Geschichte der Schweiz im*

*sechszehnten Jahrhundert, 2 vols* (Zurich: S. Höhr, 1836)

Maliniak, J., *Die Entstehung der Exportindustrie und des Unternehmerstandes in Zürich im XVI. Und XVII. Jahrhundert* (Zürich; Leipzig: Rascher, 1913)

Mörikofer, J. C., J. J. *Geschichte der evangelischen Flüchtlinge in der Schweiz* (Leipzig: Verlag von S. Hirzel, 1876), Bodomer, Walter, *Der Einfluß der Refugianteneinwanderung von 1550-1700 auf die schweizerische Wirtschaft: Ein Beitrag zur Geschichte des Frühkapitalismus und der Textiliindustrie* (Zürich: Gebr Leemann, 1946), Spoerry, Heinrich, *Abriß aus der Geschichte Zürich smit spezieller Darstellung des Handels und der Darstellung des Handels und der Textilgewerbe von deren Anfängen bis Ende des 16. Jahrhunderts* (Wald: Buchdruckerei W. Hesz, 1922)

その後、ルガノのビブリオテークで入手した、Chenou, Albert, *Taddeo Duno et la Réforme à Locarno* (Bellinzona: Archivio Storico Ticinese, 1972) がある。最近では、Taplin, Mark, *The Italian Reformer and the Zurich Church, c. 1540-1620* (Aldershot: Ashgate, 2003) である。

上記の『倫理』論文でヴェーバーは、「カルヴィニストのディアスポラ（散住）を「資本主義の育成所」»Pflanzschule der Kapitalwirtschaft«としたゴータインの指摘を正しいと述べている（Weber, a. a. O., S. 27, 大塚訳31頁、梶山・大塚訳30頁）ことが第一点。後に、ヨーゼフ・クーリッschel（1878-1934）は『ヨーロッパ近世経済史 I』（諸田實他訳、東洋経済新報社、1983年、29-31頁、Kulischer, Josef, *Allgemeine Wirtschaftsgeschichte des Mittelalters und der Neuzeit*, Bd. 2: die Neuzeit, S. 21）で女王メアリのもとで迫害されたイギリスの新教徒、異端審問によってスペインから追放されたユダヤ人（マラノス）、アルバ公の恐怖政治のもとで圧迫された南ネーデルランドの人々、ロカルノから追放されたイタリア人、などの信仰の亡命者が、新技術、新販路（技術・産業の移転）をもって移住したことについて述べ、17世紀から18世紀にかけてスイスの繁栄する工

業は、ほとんどすべて入国した外国人から起こったこと、そしてスイスでは、チューリヒの絹織物工業は、ロカルノからの改革派の信仰の亡命者によって、他のすべての重要な工業部門はナントの勅令の廃止(1685年)後のフランスのカルヴァン派ユグノーによって、すなわちバーゼルのリボン織業、ヌーシャテルの編物業、ジュネーヴの時計工業などがそうであるとも述べている。

第二点は、ヴェーバーの『倫理』論文の加筆訂正箇所に関わる。

ヴェーバーの『倫理』論文は、1905年に *Archiv für Sozialwissenschaft und Sozialpolitik*, Bd. 20, 21. に発表されたが、この論文の第1章は1904年11月第19巻第3分冊に発表されていた。

後にヴェーバーは、1919年から20年にかけて改訂を行い、それが、*Gesammelte Aufsätze zur Religionssoziologie*, Bd. 1, Tübingen, 1920 に収められた。

この改訂について詳細な研究を行ったのは安藤英治で、日本のヴェーバー研究史に新たな問題提起を行った。(安藤英治「M. ウェーバーの宗教社会学改訂について [第一部]」『政治経済論叢』第18巻第1・2号合併号、15-89頁)

ヴェーバーは、1905年に発表された当初、『倫理』論文をめぐって批判、反批判がF. ラッハファール、W. ズムバルト、L. プレンターノらのあいだで行われたことを回顧しながら、彼は、1920年の『倫理』論文の著者序言で「発表当時のこの論文の、およそ内容的に重要な見解を述べている文章で、削除したり、意味を変えたり、弱めたり、あるいは内容的にことなった主張を添加したような箇所は一つもない」と述べている。(Weber, a. a. O. S. 17-18大塚訳、12頁、梶山・大塚訳上12頁)

実際、彼の妻マリアンネ・ヴェーバーの『伝記』(Weber, Marianne, *Max Weber ein Lebens Bild*, Tübingen, 1926, S. 351, マリアンネ・ヴェーバー著大久保和郎訳『マックス・ウェーバー 1』みすず書房、1961年、266頁)には〈足の瘤〉»Fußnotengeschwulst« [膨大な脚注のこと]と、表現したり、また「プレントーノやズムバルトのような、彼がそれまですでに—ラッハファールに対するように—反批判を呈しておかなかった批判

者たちの議論に対する反論によって、さらにいちじるしく膨張している」からだ。(Marianne, S. 351-352, 大久保訳266頁)

マリアンネは、『伝記』で、改訂の背景を踏まえて、次のように、『倫理』論文で、すべての学問的準備や資料をさらけ出すことが何が何でも必要だったこと、「論点があまりに人の意表を衝くものであったことと、それらの論点を絶対的なものにしまいとする慎重なやり方が差当り相手からも十分に理解されていなかったことから本来生じているさまざまな論争が証明している。そして最後に、歴史的記述の枠のなかでは認識と評価とを分離しておくことが可能であるということ ウェーバーは彼自身の分析したさまざまな倫理的宗教形象の価値についての判断を絶対に控え、直接的にであれ〈神々〉のあいだに位階を設けることはいかなる場合にもしなかった」と述べている。(Marianne, S. 351-352, 大久保訳266頁)

後年、ユグノーの家系である、経済史家のグスタフ・オバン (Aubin, Gustav, 1881-1938) は、次のように「人がドイツ国民全体とドイツ経済全体における外国のプロテスタント達の受容という事実とその考察を限定しようとするならば、それは問題の周辺だけに言及することが肝心でしょう。この事実さえも、宗教改革と経済生活との間に生じた精神的な関連の検討に基づいて考察される場合にはじめて、究極のもっとも深い根拠において、その著しい影響を把握することができるでありましょう。事情に精通した方は、この指摘が、その最初の体系的な論述と説明がマックス・ヴェーバーという偉大な名前に結びつけられるあの関連を狙うものであることをご存じであります。ヴェーバーが「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」という当時において意表を突かれたような、驚くべき斬新で人をひきつける気持ちをおこさせた題名の一論文の中で、それまで対立する両極と見なされがちであった2つの現象の複合の局面を結びつける糸を発見してから丁度1/4世紀が経過しました。さまざまな学問の専門領域でたたかわれた活発な論争の結果、ヴェーバーの得た結論はその核心において確証されました。この命題に対して向けられた攻撃は、この命題の創始者自身を与えた形式に対して向けられたというよりも、この命題が熱烈ではありますが注意深く考慮しない信奉者の手に受け入れられた時に

とった形式に対して向けられました。

このようにこのテーマは、もちろん、どうしても拡がらざるをえないので、その取扱いは、いうまでもなく重要な事柄に鋭く制限されねばなりませんし、また粗っぽい図式化した取り扱いの危険、詳しい叙述に代えて、要点の指摘やもしくは警句を使用する危険が生じます。それは、聴き手が確実な判断と価値判断とを混同しがちなテーマの場合には二重に危険であります。そういうわけで、以下で述べることになる諸現象—相互に対立する個々の信仰であれ、経済発展の総過程の内部における資本主義的な経済形態であれ—の評価はもとより、それらの現在の視角の評価といったことはまったく考えていないことを、とくに明白に強調しておきたいと思います。過去にもあったか、また今あるのか、ただ、事実を確定し、提示するだけであります」(G. Aubin, *Der Einfluß der Reformation in der Geschichte der deutschen Wirtschaft: Rede gehalten bei der Reformationsfeier der Vereinigten Friedrichs-Universität Halle-Wittenberg am 31. Oktober 1929*, S. 2-3、吉田訳「ドイツ経済史における宗教改革の影響」神奈川大学『国際経営論集』2019年第57号、121-139頁)と述べ、これまでの『倫理』論文をめぐる論争を、オバンは一蹴するかのよう捉えている。

しかし、上述の安藤の研究は、この改訂がヴェーバーの言明に反して、本文の加筆(部分または全文加筆)、削除、変更、自称の変更、ゲシュペルト、引用符の変更があった。

さらに、注については、新注の増補、加筆と削除と変更など、改訂は、かなり大規模で、それも徹底したことを、安藤は明らかにした。

安藤の改訂の研究から、以下の記述に注目したい。

「世界史の、あらゆる信仰の移住者たち…ロカルノからチューリヒに移住してきたプロテスタントの家族(Muralt)やペスタロッツィ(Pestalozzi)などは、やがてチューリヒにおいて近代に独自の資本主義的な(産業的)発展の担い手となったが、それはまったく事情が違っている。」(Weber, a. a. O., S. 24、大塚訳26頁、梶山・大塚訳上25頁)と、ヴェーバーは述べているが、この箇所は、改訂前にはなかった。おそらくこの箇所は、後述す

るマリニャックの優秀な学位論文（ヴェーバー）に依拠していると思われる。

ヴェーバーは「資本主義の精神」の心情にみたされた担い手たちは、「もっぱら都市貴族の資本主義的企業家だったとか、また彼らの間にとくに多かったというわけではなかった。むしろ、向上しようと努力しつつあった産業的中産者身分（die aufstrebenden Schichten des gewerblichen Miteilsstandes）のなかにかえって遥かに多くみられたのだ。…16世紀にもすでに事態はそれと同じだったのであり、当時成立しつつあった産業は主として成り上がり者の手で創り出されたものだった」（Weber, a. a. O., S. 50, 大塚訳72-73頁、梶山・大塚訳73頁）と述べる際に、それを補完するために、「(2) これに関しては、マリニアックの優秀な学位論文をJ. Maliniak, Züricher Dissertation (1913)を参照。」（Weber, a. a. O., S. 50, 大塚訳74頁、梶山・大塚訳上、73-74頁）と指示している。

ヴェーバーが新たに注を加え、引用した1913年のJ. マリニアックの学位論文“Exportindustrie und des Unternehmerstandes in Zürich in XVI. und XVII Jahrhundert”, Zürich und Leipzig: Rasher, 1913.で、マリニアックは、上記のロカルノの信仰の亡命者を研究する上で、あらゆる研究者が使用している第一級の文献であるMeyer, Ferdinand, *Die evangelische Gemeinde in Locarno, ihre Auswanderung und ihre weitem Schicksale: Ein Beitrag zur Geschichte der Schweiz im sechzehnten Jahrhundert, 2 vols* (Zurich: S. Höhr, 1836)と未だに価値を失わないMörikofer, J. C. , J. J. *Geschichte der evangelischen Flüchtlinge in der Schweiz* (Leipzig: Verlag von S. Hirzel, 1876)を、無論、Weber, Max, *Die protestantische Ethik und der “Geist” des Kapitalismus. Archiv für Soziaiw. und Sozialpolitik, N. F. B. 2, S. 1 u. ff. und B. 3, S. 1 u. ff.*を引用し、16世紀から17世紀にかけてスイス盟約者団のイタリア語圏共同支配地ロカルノからの信仰の亡命者（Glaubensflüchtlinge）のチューリヒ来住、その後の彼らロカルノ人の商工業活動がチューリヒの資本主義的産業の発展に貢献したことを明らかにした。

マリニアックは、その事例として、16世紀末から17世紀後半にかけて都市チューリヒの有産市民の資産が著しく増加していることを、1559年

に導入された工業関税と1621年に導入されたポンド関税の徴収額にもとづいて実証している。工業関税は、カントン（邦）・チューリヒで製造されてカントンの外へ輸出されるすべての製品に課せられ、ポンド税は関税的な性格をもち、邦内で邦外の者が購入したすべての商品、邦民が外国商人から購入したすべての商品に課せられたから、この二つの税は17世紀においてチューリヒ最大の財源だったからである。そして、この有産市民には、ヴェーバーが改訂した際に引用したロカルノ人の代表的家族（ムールルト家、オレリー家ほか）、キャヴェンナ出身のペスタロッツイ家などが含まれ、彼らの資産増加も明らかになる。当時のチューリヒの地場のツンフト・手工業者、しかもロカルノ人から手工業・技術・技巧を積極的に受容する新しい〈精神〉をもったヴェルトミューラ兄弟他の〈成り上がり者〉の事例をも提示している。この〈成り上がり者〉“Emporkommlinge”についてマリニャックは、チューリヒで立身出世した人々、産業家や商人たちを事例にあげて、成り上がり者とは、貴族であろうと市民であろうと、当時チューリヒの産業生活に参加していたあらゆる人を指すことができると述べている。(Maliniak, a. a. O., S. 134-135.)

おそらくヴェーバーは、ここから〈成り上がり者〉“Emporkommlinge”は、原論文（1905年）には記載がなく、安藤の指摘から明らかのようにマリニャックに依拠した加筆訂正であると考えてよいであろう。

そしてヴェーバーは、現論文（1920年）では、この〈成り上がり者〉をマリニャックの“Emporkommlinge”ではなく“Parvenüs”で表記している。(Weber, a. a. O., S. 50)

この“Parvenüs”は、おそらくフランス語では“Parvenu”（軽蔑的に「成り上がり者」「成金」）に由来していると思われるが、*Das Grosse Wörterbuch der deutschen Sprach in 6 Bänden* (Bibliographisches Institute, 1976-1981) のBd. 2. Cl-F (S. 684) とBd. 5. O-So (S. 1956) では、“Parvenüs”は、「成り上がり者」、「Emporkommlinge」は、「短期間で権力と富を獲得した人」として少し軽蔑の意を含めた「成り上がり者」として説明しているのだが。

またマリニャックは、デェンドリカーから、ツヴィングリの宗教改革は、単なる宗教的な変革はなく、倫理的、精神的、社会的な改革でもあったが



(Dändliker, Karl, *Geschichte der Stadt und des Kantons Zürich*, Band II, S. 289)、しかしルターは、少なくともカトリシズムの職業上の義務の重要性を強調し、神から与えられた職業に留まるべきだと考え、ツヴィングリのように神の祝福を呼び起こす生産的な仕事の重要性を強調していないと指摘している。(Maliniak, a. a. O., S. 60)

ヴェーバーも「ルッターの場合、宗教改革の活動を開始した当初は、職業は根本において被造物的なものだと考えていた」(Weber, a. a. O., S. 75, 大塚訳121頁、梶山・大塚訳123頁)、「ルッターは、結局、宗教的原理と職業労働との結合を根本的に新しい、あるいはなんらかの原理的な基礎の上にうちたてるにはいたらなかった」(Weber, a. a. O., S. 77, 大塚訳122頁、梶山・大塚訳124頁)と述べている。

以下では、信仰の亡命者ロカルノ人のスイス散住後の政治的、経済的、文化的発展のなかで果たした役割と意義について知る上での最も古典的研究であり、スイスにおける信仰の亡命者、ロカルノ人の周辺について研究する上で必要不可欠の文献、Meyer, Ferdinand, *Die „Geschichte der evangelischen Gemeinde Locarno, ihre Auswanderung und ihre Schicksale“* (2 Bde.) について、本稿(其の1)では、マイヤーの全2巻の大著ゆえに本書の目次の各章をあえて、著者マイヤーに対して語弊があるが、一瞥することで、その概要をみてみたい。

## 著者フェルディナント・マイヤーについて

フェルディナント・マイヤー(1799-1840)は、高位官僚で連隊長の父、ヨハン・ヤコブ・マイヤー(1763-1819)と商人ヤコブ・クリストフスの娘である母スザンナ(?-1800)との4男として1799年3月7日、チューリヒに生まれた。

彼の兄弟には、ハインリッヒ・マイヤー・ヘス(1789-1825)、フリードリヒ・マイヤー・シュルテス(1792-1870)、ウィルヘルム・マイヤー・オット(1797-1877)がいる。兄弟そろってチューリヒ州政府の公務に従事し、政治的に、文化的に恵まれた家庭環境に育った。



Meyer, Ferdinand, *Die evangelische Gemeinde in Locarno, ihre Auswanderung nach Zürich und ihre weitem Schicksale*, 2 Bde., Zürich, 1836 の巻末索引について (其の1)

マイヤーは、ギムナジウム卒業後、1807年に法律家と政治家を修業するために創設されたチューリヒの政治研究所で歴史学と政治学を学んだ。1818年、彼はグリューニンゲンの地方裁判所の最高責任者であった父の秘書になった。秘書の仕事を担当することで母国の行政・法律状況について総合的な知識の基礎を築いた。

1819年の父の死後、彼はトゥーンの軍事学校でスイス盟約者団の工兵隊に志願し、そこで野戦築城について、さらに図面を作成した。

1820年の春に、ベルリン・フンボルト大学に入学し、法律、歴史学、政治学、国家史を学んだ。国家の歴史と政治は、その後のマイヤーの研究の主題となった。

大学では、フリードリッヒ・カール・フォン・サヴィニー (Savigni, Friedrich Carl von, 1778-1861) に魅了されサヴィニーの講義に参加し、そしてフリードリヒ・シュライアマハー・ダーニエル・エルンスト (Schleiermacher, Friedrich Daniel Ernst, 1768-1834) にも憧れ、臨時聴講をしている。マイヤーは政治学については、彼は歴史主義の観点からの研究に専念したが、幼なじみとの熱心な手紙のやりとりによって、私法よりも公法や政治学の研究をおろそかにしないように、また、歴史主義の見解を無暗に政治学に受容しないように説得されている。

1821年の夏、ゲッティンゲン大学のカール・フリードリヒ・アイヒホルン (Eichhorn, Karl Friedrich, 1781-1854) の古典研究を聴講し、冬をローザンヌで過ごした後、1822年の春、チューリヒに帰国した。

チューリヒに戻ると、市の司法委員会の秘書として公務をこなし、また同時にチューリヒの「政治研究所」では政治経済学と統計学の主任・講師を担当した。

1824年、彼は、上席判事・裁判長で州議会員のヨハン・ウーリッヒ・ツェラー (1761-1828) の娘、エリザベス・フランツィスカ・シャーロット (1802-1856) と結婚した。

二人の間に、コンラット・フェルディナント・マイヤー (Conrad Ferdinand Meyer, 1825-1898) とエリザベス・クレフィア・マイヤー (1831-1912) が生まれた。コンラットは、19世紀スイスのドイツ語圏を代表する

作家となった。

1826年の春に、マイヤーは州政府の三等国家書記に任命された。

1830年に彼は参事官となり、1831年3月1日に制定された新しい憲法の草案に貢献した。

1832年の春、スイスの党派的闘争、特に、「新生」（「再生」）運動を巡ってチューリヒと異なり、バーゼルで起こった混乱の結果として、チューリヒでも超急進的な政党が支配的になり、マイヤーは州政府の参事官を辞任する。その後、彼はチューリヒの教育委員会での公務に復帰し、チューリヒ大学の設立に尽力した。

1836年、彼は「ロカルノの福音主義信仰共同体の歴史、そのチューリヒへの移住とその後の運命」（2巻）を出版した。この著作は、スイス、特にチューリヒにとって極めて重要な16世紀のこれまで知られていなかった歴史的出来事をこれまで使われていなかった手稿資料で初めて包括的かつ詳細に明らかにした。チューリヒ大学では、この著作の研究の意義とマイヤーの教育への貢献を称え、創立3周年記念に名誉博士号（Doctor Honor）を授与した。1839年10月2日に教育委員会会長に選出され、大参事会では複数の委員会のメンバーとして活動し、教会評議会と内務委員会構成員も担った。

彼の他の著書には、『1405年のベルンの大火災』（1830年）、『ヨハン・ゴットフリード・エーベルの伝記1764-1830』（1833年）、『1564年から1566年のスイスのベスト』（1836年）などがある。

参照：

Historisches Lexikon der Schweiz (HLS) - Schweizer Geschichte (hls-dhs-dss.ch)

Katja Hürlimann: "Meyer, Ferdinand", in: *Historisches Lexikon der Schweiz (HLS)*, Version vom 14.11.2008. Online: <https://hls-dhs-dss.ch/de/articles/013505/2008-11-14/>, konsultiert am 01.12.2023.

Deutsche Biographie - Meyer, Ferdinand (deutsche-biographie.de)

Wyß, Georg von, "Meyer, Ferdinand" in: *Allgemeine Deutsche Biographie* 21 (1885), S. 569-571 [online version]; URL: <https://www.deutsche-biographie.de/pnd132223570.html#adbcontent>

緒言	v-xi
使用した古文書の原典について	xii-xviii
略語の解説	xix
第1巻の目次	xx-xxii

### 第1編 事件の事前設定。イタリアの宗教運動。盟約者団のイタリア人亡命者。

第二次平和条約締結後のスイス盟約者団の諸教派。	1
イタリアの福音主義精神の萌芽。	6
外部から促進された影響。	15
厳格なローマ・カトリック教会の反動	18
ローマの異端審問	21
福音派の迫害。	25
ピエルパオロ・フェルゲリオ	36
盟約者団の支配地における福音派教義の始まり。	40
イタリア人亡命者の異端。	45
盟約者団におけるフェルゲリオ	51
指揮官と礼砲の確執	61
イタリアのプロテスタンティズムに対する反動。	70
盟約者団へのローマ教皇とスペインの特使の派遣。	80

### 第2編 ロカルノの支配とイタリア語圏代官管轄領一般。ミラノ公国との関係。 ロカルノの福音主義信仰共同体の生成。

ロカルノ、小さな市場町と支配	85
イタリア語圏代官管轄領の政治的事情	97
教会の事情	105
慣習事情	113
発展過程	119
第二次宗教戦争の前後の事件	125
ミラノ公国の事情	137
代官ヨアヒム・ベルデイ	162
ジョバンニ・ベッカリア	165
アントニオ・マリオ・ベヅォ	173

### 第3編 ロカルノをめぐる論争。チューリヒ。福音派の迫害。

最初の迫害	179
タデオ・デュノ、ロドヴィコ・ロンコ、マルティーノ・ムーラルト	188

ロカルノについての論争	190
ハインリッヒ・プリンガー	198
ヨハネス・ハーブ	216
ヨハン・ルドルフ・ラヴァター	218
1549年のフランス同盟	226
プロテスタントの邦へのベッカリアの旅	228
新たな迫害	235
ロカルノの処方	242
ミソコのベッカリア	247
タデオ・デュノの宿命と著作上の確執	249
代官カスバル・スティエリと地方裁判所書記ウォルター・ロール	256

**第4編 スイス盟約者団内での論争。バーデンの盟約者団会議での仲裁。  
チューリヒは仲裁を拒否。**

改革派の邦はロカルノ人を容認することを始める	269
フリブルでの会議	275
イタリア語圏の代官管轄領における賃借受取と贈与金受取の廃止	279
ロカルノの福音派に対する7邦の全権委任	283
4都市がこの事態に賛成	287
ベゾッツォのチューリヒへの2回目の特使	292
イザヤ・ロイクリンはロカルノへの代官として行く	297
ロカルノの改革派の信仰共同体に関する彼の報告	301
平和条約の意味をめぐる論争	303
緊張の高まり	308
最初の和解草案・構想	317
改革派の邦の不一致	319
ニコラオ・グレコの攻撃	323
ロカルノの改革派は服従を拒否	326
4都市の動揺。7邦の進捗	329
ヌンティウス・オッタヴィアーノ・リバータ	334
ロカルノ人は戦争を引き起こすよりもむしろ移住を求めた	335
フランス大使、サン・ローラン	337
1554年11月のバーデンの盟約者団会議	341
仲裁	349
チューリヒの拒否	354
意見調整の徒労	358
バーデンの盟約者団会議での最終交渉	364
プリンガーとサン・ローラン	368

説教家の熱意	374
チューリヒへの3都市の無益な特使	383
ツンフトと都市共同体にむけてのチューリヒ当局の報告	388

## 第5編 ロカルノの仲裁の執行。改革派の移住。 スイス盟約者団とドイツ帝国の緊迫状態。

チューリヒの配慮	396
ロカルノの7邦（グラールスを含む）の使者	402
ヌンティウス・リヴェルタ	408
ニコラオ・グレコ問題の進展と死刑執行	417
ロカルノの会議のその他の交渉	420
依然ミソッコにいるベッカリア	426
チューリヒは、盟約者団3邦とロカルノ人のために交渉する	428
ロカルノ人に敵対するミラノの処罰命令	440
ロカルノ人はチューリヒ移住を希望	442
7邦	444
ロベレドへのロカルノ人の移住	447
ツークでの争い	451
ザーネンでの争い	452
エルグエルでの争い	453
アウクスブルクの帝国議会	456

## 付録

1. バルダサール・アルティエのスイスへの旅と宿命	465
2. ロカルノ城での投獄に関する代官のヤコブ・ヴェルドミュラーの報告	477
3. シチリアのフランシスコ会コルネリオの歴史に関する文書	479
4. パウロ・オレロへの匿名の告発	484
5. 1550年のロカルノ債務	485
6. ロカルノの福音主義者に関する地方裁判所書記ロールの報告	488
7. ライン渓谷とマジヤの谷でのウーリー州の紋章に対する侮辱	490
8. ロカルノの改革派に対する処罰命令	492
9. 1554年7月付け、改革派のロカルノ人の名簿	494
10. 改革派ロカルノ人の信仰告白	499
11. 1554年のクリスマス前夜のバーデンでの盟約者団会議で 改革派4都市の大使間の交渉に関する市書記エッシャーの覚書	501
12. バーデンでの盟約者団会議の仲裁に関するチューリヒの審問会の勧告	505
13. ハンス・ヤコブ・アドリシュヴァイラー宛のプリンガーの手紙	510
14. 1555年1月の改革派ロカルノ人の名簿	511

15. ローマ教皇の遣外使節との会談に関するバーバラ・ムラルトの証言	516
16. ベッカリアのタディーオ・デユノへの手紙からの断片	518
17. ロカルノから移住した福音派の第一の名簿	521
18. ロカルノから移住した福音派の第二の名簿	523
19. エルゲールをめぐる紛争に関する報告	

第2巻の目次	iii
--------	-----

## 第6編

チューリヒにロカルノ人到着	1
ロカルノ人の教会	6
フェルゲリオ	8
ロカルノ人のその他の問題	10
改革派の都市と農村の好意?	13
ベルナルディーノ・オッキノ	19
チューリヒは、十分に新移住民をとりなす	22
ロカルノ人信仰共同体の経済	29
後続の新移住民者	37
ピエトロ・マルチャーレ・フェルゲリオ	39

## 第7編 新たな宗教上の係争。教皇への5邦の派遣員一行

教皇パウロ四世	45
盟約者団誓約をめぐる論争	48
ヴァリスの緊張	55
チューリヒは説教家と意見の相違	61
ツークでの聖書焼却	68
教皇への特使	75
盟約者団内での策謀	77
ローマへの旅とそこでの討議	80
帰途	90
ヴァルター・ロールは彼の職務から外れる	97
レウクリンの最後の運命	101
ローマへの特使のさらなる帰結	111

## 第8編

ロカルノでの絶え間のない迫害。チューリヒの陰悪な状況。	117
ロカルノは艱難を耐え忍ぶ	125

7邦の介入	127
ロカルノ人を容認するための盟約者団内の討議	131
ベッカリアは再度ミソッコへ	134
チューリヒでのロカルノ人の雇用事情	136
ミラノでの過酷な労働	145
ロカルノ人の工業に関するチューリヒでの再三再四にわたる審議	148
ラバータとハーブの死	160
ロカルノ人同志の内輪もめ (争論)	163
オキノの追放	166
ベゾッオの進展	184

## 第9編 盟約者団の臣従地。イタリアでの教会の反動の継続。

### ベッカリアとフェルゲリオの最後の運命。

### ミラノ公国でのロカルノ人と他の福音派の迫害。

ヴェルトリンとキャヴェンナでの両宗派間の論争	198
ミラノの干渉	205
ヴェルトリンのイエズス会	206
ピウス5世までのローマ教皇	207
イタリアの福音派の迫害	212
ミラノにスペインの異端審問を取り入れる試みの失敗	217
再度の教皇とスペインの特使を盟約者団へ	221
ミソッコからのベッカリアの再三再四の追放	225
盟約者団でのフェルゲリオの活動	236
プリンガーの憂慮	257
枢機卿ボロメオ	264
ミラノの異端者処罰命令	270
ファンゲリスタ・ツアニーノの訴追	274
彼の工業	281
チューリヒのミラノ商人に対する報復処置	288
フランチェスコ・チェッラリオの監禁と死刑執行	294
ベネチアの異端者処罰命令	299
ミラノでの絶え間ない迫害	300
相互護衛の更新に関する討議	307

## 第10編 ロカルノの福音主義信念の最終的な軌跡。

### チューリヒのロカルノ人の信仰共同体の緩やかな終焉。

ロカルノでの審問と処罰	313
チューリヒの市民ジョヴァンニ・ムーラルト	320



タデオ・デュノが真価を得る	324
ロドヴィーコ・ムーラルトがベルンに定住	326
チューリヒの工業の繁栄	330
ファンゲリスタ・ツアニーノの最後	335
ジャコモ・デュノ	339
タデオ・デュノの宿命	340
チューリヒのロカルノ人信仰共同体の展開	343
オレリー家と他の家族は市民権を獲得する	347
結論	354

### 付録（続）

20. チューリヒでのイタリア人の礼拝の導入に関する決議	359
21. チューリヒのロカルノ人信仰共同体の構成	363
22. 当時のカトリック聖職者の道徳の歴史への貢献	369
23. ロカルノの伝道牧師の日課に関する報告	370
24. 1556年のチューリヒのロカルノ人家族の名簿	372
25. ロカルノ人の工業に関する第一の報告	375
26. ロカルノ人の工業に関する第二の報告	377
27. ロカルノ人の工業と他のイタリア人に関する第三の報告	380
28. ロカルノ人の拡大する居住に関する 1558年のチューリヒの条例	390
29. 1564年のチューリヒのロカルノ人家族の名簿	393
30. アントニオ・マリオ・ベゾッツォに掛けられた取調べに関する文書	395
31. 1564年のミラノの異端命令	401
32. ファンゲリスタ・ツアニーノがチューリヒに移植した工業に関する報告	403
33. ジロラモ・ツアニーノの証言	405
34. ザクセン選帝侯アウグストゥスからボロメオ枢機卿への、 ミラノの異端審問の暴虐に関する書簡	406
35. ミラノ公国で監禁され護送されたロカルノ人移住者についての文書	407
36. ボムバジン（たて糸に絹、よこ糸に毛を用いた綾織り）審査についての チューリヒの条例	411
37. 1576年のチューリヒのロカルノ人家族の名簿	414
38. フランチェスコ・ムーラルト家の私家文書	416

アルファベット順人名索引

418

(ローマ数字は、巻を、アラビア数字は頁を指す)。

A.

Aa, von Caspar.	I. 310. – II. 122.
Aeberli, S. Thomann, Hans.	
Adlischweiler, Anna.	I. 211.
Adlisschweiler, Hans Jakob.	I. 397.
Adlisschweiler, Johannes.	II. 192.
Alba, Fernando Alvarez von Toledo, Herzog von.	I. 27. – II. 23, 99 u. ff. 105. 115. 118. 212. 286.
Albertin, Caspar.	II. 352.
Albertina, Angelina.	I. 449.
Albertino, Francesco.	II. 34. 148.
Alberto, Pietro.	I. 421.
Albret, D', Jeanne.	II. 244.
Albuquerque, Gabriel de la Cueva, Herzog von.	II. 265. 270. 273. 277 u. ff. 290. 297. 302.
Alciato, Andrea.	I. 38.
Alessandrien, Cardinal von S. Ghislieri, Michele.	
Alexander VI, Papst.	I. 7.
Alt, Sebastian.	I. 402. 418.
Altieri, Baldassar.	I. 33. 34. 36. 48. 51. 293. 465 u. ff.
Amerbach, Basilius.	II. 158.
Ammann, Bartholomäus.	II. 161. 313. 315.
Andelot, D'.	II. 305.
Andreä, Jakob.	II. 245. 264.
Angelo, Fra, von Cremona.	II. 199.
Angusola, Giovanni, Graf von Riva.	II. 272. 273. 276 u. ff. 282. 287. 288. 291. 295. 301. 302. 304. 305.
Antonio, Fra, von Casale.	I. 124.
Appiano, Caterina, Frau von Leonardo Bodtto.	I. 242. 290. 416. – II. 26. u. ff. 33.
Appiano, Filippo.	I. 291. 449. – II. 20. 25. 31.
Appiano, Francesco.	I. 291.
Appiano, Francesco Michele.	I. 291. 449. – II. 37. 145. 165. 299. 335.
Appiano, Pariso.	I. 448. – II. 3. 24. 149. 157. 301.
Appiano, Tiberio.	I. 260 u. ff.
A Pro S. Pro.	
Arcimboldo, Gio. Angelo, Erzbischof von Mailand.	I. 151.

Aretino, Pietro.	I. 37.
Arnold, Heinrich.	II. 26.
Avalos, de. S. Pescara und Pasto, del.	
Ayamonte, Antonio de Guzman, Marquers de.	II. 308.

**B.**

Baddi, de', Agostino.	II. 334.
Baddi de', Battista.	II. 38. 140. 304. 333. 335.
Baddi de', Chiara, geb. Verzasca.	II. 38.
Baddi, de', Toma.	I. 303.
Baden, Carl, Markgraf von.	II. 242
Bäldi, Joachim.	I. 162. U. ff. 168. 175. 189. 197. 402. 418. 424. 425. 433. 434. 448.
Bäβmer. S. Beβler.	
Barnaba, Francesco.	II. 319.
Bassefontaine, Sebastian de l'Aubespine, Abt von.	I. 79. 80. 81. 84. 87. 295. 337. – II. 259.
Bathori, Sigismund.	II. 345.
Battista, von Mailand.	I. 33. – II. 33.
Battista, von Crema.	I. 149.
Bayonne, Bischof von. S. Fresse, de.	
Beccaria, Giovanni.	I. 55. 156. 161. 164. 165 u. ff. 169. 172. 176. 177. 178. 183 u. ff. 196 u. ff. 228. 230. 233. 235. 235. 238. 246. 247 u. ff. 313. 409. 426 u. ff. 438. – II. 5. 6. u. ff. 9. 12. 13. 21. 35. 39. 134 u. ff. 152. 225 u. ff.
Beccaria, Paolo.	II. 21. 235.
Bedano, Gianantonio.	I. 165. 185. 267. 291. – II. 54.
Belinchetto, Alessandro.	II. 181. 215 u. ff.
Belinchetto, Francesco.	I. 194. 291. 412. – II. 159.
Belinchetto, Lucia.	I. 291. 412. 416. 449. – II. 21. 26 u. ff. 30. 34. 159.
Bembo, Pietro.	I. 12.
Benada, Bernardino. S. Bello, Bernardino.	
Benedetto, von Locarno.	I. 33. 161. 164. 167 u. ff.
Berger, Georg.	I. 201. 219. 221.
Beroldingen, von, Josua.	I. 311. 348. 402. 417. 418. – II. 81. 90. 95. 103.
Beβler, Magnus.	I. 104. 326. – II. 81. 90. 95.
Besozzo, Antonio Mario.	I. 173. 364. 266. 273. 286. 293 u. ff. 323. 328. 341. 398. 439. – II. 24. 38. 142. 144. 156. 158. 164. 184 u. ff. 192 u. ff. 273
Betti, Francesco.	I. 149. – II. 152. 246.
Bettschart, Rudolf.	II. 119.

Beza, de, Theodor.	I. 214. – II. 245. 246.
Bianchi, Bernardino.	II. 222 u. ff. 250.
Bibliander, Theodor.	I. 58. 150. 155. 200.
Bircher, Hans.	I. 58. 461. II. 13. 16. 260.
Blarer, Ambrosius.	I. 58. 461. II. 13. 16. 260.
Blasius, Johann.	I. 49. 63. – II. 23.
Bobadilla.	II. 207.
Bodetto, Leonardo.	I. 242. 290. 416. – II. 33.
Bologna, di, Barbara. S. Muralta, Barbara.	
Bolsinger, Hans.	I. 102.
Bonetto, Francesco.	I. 476.
Bonstätten, von, Johann Jakob.	II. 15.
Borromeo, Carlo. I. 109. 114. 121. 180. – II. 93. 181. 211. 220. 235. 264 u. ff. 302. 303. 304.	
Bosso, Marcantonio.	II. 148. 272.
Bourbon, von, Connétable.	I. 140. 141 u. ff.
Brandenburg, Albrecht, Markgraf von.	II. 115. 209.
Brenz, Johann.	I. 87. – II. 240. 245. 231. 264.
Bricio, Battista.	I. 191. 196. 311. 401. 446. – II. 54. 123. 126.
Brüggler, Sulpitius.	I. 326. 421. – II. 119.
Brunner, Fridolin.	I. 168.
Bucer, Martin.	I. 16. 20. 39. 202. 229. 474. – II. 39. 40.
Buchanan, Jakob.	II. 33.
Bullinger, Heinrich. I. 3. 51. 52. 53. 57. 58. 69. 74. 78. 81. 82. 84. 86. 150. 155. 159. 160. 168. 177. 197. 198 u. ff. 226. 228. 229. 234. 247. 266. 274. 276. 293. 295. 296. 319. 323. 327. 328. 329. 337. 341. 356. 362. 368 u. ff. 374. 375. 377. 378. 379. 380. 381. 388. 396. 398. 399. 436. 442. 450. 455. 457. 461. 466-476. – II. 4. 6. 9. 10. 13. 14. 16. 17. 18. 20. 22. 25. 28. 30. 39. 41. 42. 45. 51. 63. 132. 134. 136. 138. 142. 161. 163. 166. 167. 170. 173. 176. 179. 180. 190 u. ff. 200. 202. 204. 225. 230. 238. 239 u. ff. 247 u. ff. 251 u. ff. 256. 257 u. ff. 322. 325. 326. 327. 329. 335. 340. 344.	
Bullinger, Heinrich, der Sohn.	II. 4. 6.
Bullinger, Margaretha.	I. 296.
Bünti, Johannes.	II. 73.
Buonuomo, Nuntius.	II. 269.
Bürgler, Melchior.	II. 315.
Burlamachi, Gonsaloniere von Lucca.	I. 24.
Bussi, Dionys.	I. 292.
Bysz, Urs.	II. 267.

C.

- Cabalzar, Martin. II. 199. 202. 225. 229. 230. 234.  
 Calvin, Johann. I. 18. 39. 55. 56. 160. 319. 368. 374. 375. 388. 397. 450. – II. 13. 16. 44. 264.  
 Calvo, Andrea. I. 155.  
 Calvo, Francesco. I. 15.  
 Camilio, zugenannt Renato. I. 47. 64. 159.  
 Camillo, von Modena. II. 32.  
 Canpanus. S. Flavius, Johannes.  
 Campeggi, Cardinal. I. 16. 19.  
 Campeggi, Tomaso. I. 39.  
 Campell, Ulrich. I. 112.  
 Camph, zum, Gerard. II. 40.  
 Campo, di, Elisabeta. I. 419. – II. 32. 38.  
 Campo, di, Filippo. II. 38. 148. 151.  
 Camuzzi, Andrea. I. 192 u. ff. 254.  
 Camuzzi, Girolamo. I. 192 u. ff. 254.  
 Canesa. S. Beccaria, Giovanni.  
 Capito, Wolfgang. I. 39. – II. 203.  
 Capito, Rorandus. I. 209.  
 Capito, Rolandus. I. 209.  
 Caracciolo, Antonio. I. 9. 17.  
 Caracciolo, Galeazzo. I. 75.  
 Caraffa, Carlo. II. 75. 96. 114. u. ff. 209.  
 Caraffa, Giampietro. I. 9. 20. 21. 22. 28. 460. – II. 45. S. auch Paul IV, Papst.  
 Cardano, Girolamo. I. 189. 250 u. ff. – II. 345.  
 Carisch, Georg. II. 1.  
 Carl V, römischen Kaiser. I. 5. 10. 13. 17. 19. 23. 29. 33. 39. 55. 71. 76. 82 u. ff. 143.  
 144. 146. 148. 175 u. ff. 211. 225. 340. 454. 458. 459. –  
 II. 19. 22. 23.46. 92. 96. 111 u. ff. 114 u. ff. 220. 272.  
 Carl IX, König von Frankreich. II. 244. 259. 294.  
 Carlo, Fra. I. 121.  
 Casale, Girolamo. II. 289. 291. 294.  
 Casanova, Pietro Angelo. II. 297.  
 Castellio, Sebastian. II. 178.  
 Castelvetro, Lodovico. II. 217.  
 Castiglione, Bonaventura. I. 151.  
 Castiglione, Guarnerio. I. 155. 161. 164. 264. 426. – II. 5. 20. 135. 144. 153. 156. 341.  
 Cataneo, S. Orello.

Caterina, Jakob.	II. 205.
Cellario, Francesco.	II. 296 u. ff.
Ceretto, S. Zaretto.	
Cervantes, Don Gaspar, Erzbischof von Messina.	II. 219.
Cervino, Marcello.	I. 20. 28. 38. – II. 45. S. auch Marcellus III, Papst.
Cevio, Andrea.	I. 449. – II. 26. 144. 145. 156. 165. 275.
Cervio, Guido.	II. 303.
Cham, von, Bernhard.	I. 229. 430. – II. 162. 260. 271. 287. 322. 327. 336.
Cham, von, Rudolf.	I. 430.
Chatillon, de.	II. 305.
Christian III, König von Dänemark.	I. 208.
Cigalino, Francesco.	I. 250. 251.
Ciseri, Brüder.	II. 152. 275. 277. 284. 289. u. ff.
Clario, Isidoro.	I. 15.
Clemens VII, Papst.	I. 18. 37. 142. 219.
Conignet, Matthäus.	I. 171. – II. 248.
Colonna, Vittoria.	I. 10. 12. 28.
Comander, Johann.	I. 49. 51. 60. 62. 66. 67. u. ff. 75. 81. 436. – II. 79. 135. 303.
Condé, Louis, Prinz von.	II. 244.
Contarini, Gaspar.	I. 9. 20. 22. 26. 28. 28. 29.
Cornelio, aus Sicilien.	I. 181. 479 u. ff.
Cranmer, Erzbischof von Canterbury.	I. 474. – II. 40.
Crivelli, Melchior.	I. 181. 481 u. ff.
Croce, della, Bernardino, Bischof von Como.	I. 105. – II. 205. 206. 221.
Croce, della, Pompeio.	II. 16. 18. 178.
Curiona, Elisabeta.	I. 254. 408. 426.
Curione, Celio Secondo.	I. 30. 43. 47. 52. 53. 56. 59. 60. 61. 160. 475. 476. – II. 16. 18. 178.
Curioni, de', Aloisio.	I. 254. – II. 144. 300. 301.
Custazaja, Bonaventura.	I. 33.

#### D.

Delfino.	II. 236.
Denis, Nicolas. S. Le Fer.	
Dufresne, Jean. S. Fresse, de.	I. 529.
Duna, Aspasia.	II. 300.
Duna, Elisabeta. S. Curiona, Elisabeta.	
Duno, de' Duni, Bartolomeo.	II. 340.
Duno, de' Giangiacomo.	II. 34. 301 u. ff. 339 u. ff.

Duno, de' Taddeo, Erzpriester. II. 128. 129. 313.  
 Duno, de' Taddeo, Arzt. I. 90. 162. 170. 188. 192. U. ff. 231. 249 u. ff. 293.  
 303. 336. 354. 408. 426. 428. 429 u. ff. 447. –  
 II. 4. 13. 20. 21. 29. 65. 142 u. ff. 148. 165. 182. 300. 324 u. ff. 326. 327. 340 u. ff. 347.

E.

Eck, Johann. I. 39. 84.  
 Edlibach, Conrad. II. 187. 195.  
 Edlibach, Gerold. I. 430.  
 Edlibach, Hans. I. 430. – II. 22. 31. 113.  
 Eduard VI, König von England. I. 57. 58. 208. – II. 40. 42.  
 Elisabeth, Königin von England. I. 208. – II. 244.  
 Erasmus, Defiderius. I. 8. 168. 214.  
 Erastus, Thomas. II. 344.  
 Erlach, von, Hans. II. 276. 277 u. ff. 286. 288..  
 Erlach, von, Johannes, Schultheiß zu Bern. I. 381.  
 Erlach, von, Johann Rudolf, Herr zu Spiez. II. 329.  
 Erlach, von, Wolfgang. I. 380-81.  
 Escher, Hans Conrad. II. 4. 31. 148. 154. 173. 337.  
 Escher, Hans Lukas. I. 213. – II. 337.  
 Escher, Johannes. I. 269. 287. 296. 348. 355. 357. 358. 364. 391. 447. – II. 27. 113.  
 Este, d', Ercole, Herzog von Ferrara. S. Ferrara  
 Este, d', Jppolito. I. 38.

F.

Fabritius, Johannes. I. 67. 209. – II. 135. 166. 180. 181. 191. 202. 203 u. ff. 230. 232.  
 237. 239. 242. 246. 247. 248. 251. 253. 256. 260. 262. 295.  
 Farel, Wilhelm. I. 55. 56. 383. 449. – II. 15. 16. 260.  
 Farnese, Cardinal. I. 106. S. auch Paul III, Papst.  
 Farnese, Ottavio, Herzog von Parma. II. 296.  
 Farnese, Pier Luigi, Herzog von Parma. I. 24. 24. – II. 272.  
 Feer, Jakob, der Vater. I. 130. 182.  
 Feer, Jakob, der Sohn. I. 182. 183.  
 Feer, Beat. I. 186.  
 Ferdinand, römischer König, nachher Kaiser. I. 38. 225. 457. 459. 460. – II. 206.  
 Ferrara, Herkules II, Herzog von. I. 17.  
 Ferrara, Renée, Herzoginn von. I. 17. 24. 26. 28. 30. 86. 470. 476.  
 Figueroa, de, Gomez Suarez. I. 340. – II. 23.



Figueroa, de, Juan.	II. 205.
Flacius, Matthäus.	I. 36. 251.
Flavius, Johannes.	II. 80. 85.
Fleckenstein, Heinrich.	I. 93. 278. – II. 81. 84. 87. 91. 95.
Fleckenstein, Heinrich. der Sohn.	II. 267.
Florenz, Cosimo, Herzog von. S. Medici, de', Cosimo.	
Florin, de, Johann.	II. 77. 79. 225. 227. 229. 232. 234.
Fontana, Baldassar.	I. 127.
Folscherari, Egidio.	II. 208. 210.
Francesco, aus Calabrien.	I. 47. 64.
Francesco, aus Bicenza.	II. 33.
Franco, Girolamo.	I. 334. 346. – II. 74.
Franz I, König von Frankreich.	I. 5. 20. 23. 39. 217. 344.
Franz II, König von Frankreich.	II. 244.
Franzoni, Bernardo.	I. 421.
Franzoni, Giovann.	II. 131.
Frarineus, Johannes. S. Fresse, de, Jean.	
Freiberg, von, Pankrazins.	I. 209.
Frensham, Edward.	II. 33.
Fresse, de, Jean, Bischof von Bayonne.	I. 60. 61. 84 u. ff. 87. 529. – II. 23.
Freuler, Andreas.	I. 326.
Fricker, Hieronymus.	I. 159.
Fries, Johannes.	I. 155. 266.
Fröhlich, Wilhelm.	II. 103. 111. 116.
Froschauer, Christoph.	I. 54. – II. 190. 374.
Frundsberg, Georg.	I. 142.
Fuchs, Leonhard.	I. 251 u. ff.
Fuchs, Peter.	I. 453.
Funk, Conrad.	II. 187. 195.

## G.

Gabrielle.	I. 156.
Gaddi, Paolo.	I. 274. – II. 180. 199. 201. 243.
Galateo, Girolamo.	I. 33. 35.
Gallitius. S. Saluz.	
Gallo, Aloisio.	I. 163. 237. 303. – II. 25. 98. 107.
Gallo, Francesco.	I. 514.
Gardiner, Bischof.	I. 457.

Gavirate, di, Bernardo. S. Bellò, Bernardino.	
Gerig, Conrad.	I. 134. 181. 279.
Gerwer, Caspar.	I. 109.
Geßner, Andreas.	II. 66.
Geßner, Conrad.	I. 266. 467. – II. 190. 192. 251. 322.
Ghislieri, Michele.	I. 35. – II. 208. S. auch Pius V.
Gimper, Caspar.	I. 456. – II. 157. 160. 282. 285. 317. 336. 337.
Giovio, Benedetto.	I. 16. 25.
Girolamo, Milanese.	I. 47. 161.
Girolamo, Cremonese.	I. 475.
Giulio, Milanese.	I. 29. 45. 54. – II. 6. 166. 180.
Golder, Leodegar.	I. 239.
Göldli, Caspar.	I. 219.
Göldli, Georg.	II. 155.
Göldli, Hans.	II. 155. 173.
Gonzaga, Ercole.	II. 236.
Gonzaga, Ferrante.	I. 24. 54. 71. 74. 76. 85. 145 u. ff. 150. 168. 175. 111. 340. – II. 211. 236. 272.
Gonzaga, Giulia.	I. 10.
Gratarolo, Gulielmo.	II. 24.
Gray, Johanna.	I. 208.
Greco, Caterina del.	II. 32.
Greco, Filippo.	I. 303. 408.
Greco, Nicolao.	I. 324 u. ff. 342. 417. u. ff. – II. 72.
Gregor XIII, Papst.	II. 93. 105. 266. 269.
Greyerz, Graf von, Michael.	I. 452.
Großmann, S. Megander.	
Guasto, S. Basto, del.	
Güder, Jakob.	I. 266.
Guido, von Verona.	I. 293.
Guise, von, die Brüder.	II. 244. U. ff.
Guise, von, Cardinal, genannt von Lothringen.	II. 245.
Guise, Franz, Herzog von.	II. 115 u. ff.
Gut, Heini.	I. 222.
Gwalter, Rudolf.	I. 57. 58. 156. 266. 397. – II. 29. 39. 41. 66. 152. 167. 170. 193. 260. 336.

## H.

Haab, Heinrich.	I. 216.
-----------------	---------

Haab, Jakob.	I. 216.
Haab, Johannes.	I. 148. 216 u. ff. 226. 236. 247. 269. 296. 305. 331. 348. 363. 364. 374. 383. 387. – II. 27. 66. 110. 112. 113. 150.
Haab, Urs.	I. 216.
Halden, in der, Heinrich.	I. 238. 240. 241. – II. 82. 117. 227.
Haller, Berchtold.	I. 214.
Haller, Johannes, der Vater.	I. 229.
Haller, Johannes, der Sohn.	I. 55. 59. 159. 229. 276. 296. 320. 341. 345 u. ff. 453. 462. 467. 469. – II. 14. 51. 52. 142. 143. 162. 326. 327. 328. 329. 340.
Haller, Sulpitius.	I. 380. – II. 142. 143.
Haller, Wolfgang.	I. 377. 397.
Hegner, Jakob.	II. 63.
Heim, Lucius.	I. 72. 81. 435.
Heinrich II, König von Frankreich.	I. 23. 26. 55. 79. 208. 217. 226. 337 u. ff. 344. – II. 96. 99. 111. 114. u. ff.
Heinrich III, König von Frankreich.	II. 268.
Heinrich VIII, König von England.	I. 208.
Herrera, Juan.	II. 33.
Heß, Vogt.	II. 69.
Hessen, Philipp, Landgraf von.	I. 19. 34. 208.
Hessen, Wilhelm, Landgraf von.	I. 208.
Hohenlohe, Gräfin von.	I. 209.
Horne, Robert.	I. 397.
Hug, Johannes.	I. 391.
Hugi, Jakob.	I. 402. 418.
Huguet, François.	II. 33.
Hüsli, Rudolf.	II. 63 u. ff.
Hütschi, Wolf Jakob.	I. 97.

## I.

Imfeld, Niklaus.	II. 61.
Imhof, Caspar.	II. 119.
In der Halden, Dietrich. S. Halden.	

## J.

Jäckli, Hans.	I. 394.
Jamet, Lyon.	I. 18.
Jenni, Heinrich.	II. 50.

Jeuchdenhammer, Hans.	I. 239. 256.
Jörgen, David.	II. 185.
Jsola, von, Battista.	I. 314.
Jsola, von, Francesco.	I. 314.
Jsola, von, Stefano.	I. 290.
Judä, Leo.	I. 3. 202. 224. – II. 63. 203.
Julius II, Papst.	I. 7. 346.
Julius III, Papst.	I. 334. 345. 409. 457. 459. 461. – II. 45. 75.

K.

Keller, Georg.	I. 213. – II. 190.
Kloter, Rudolf.	I. 257. 267.
Kraft, Gregorius.	II. 168.
Krebsinger, Walter.	II. 337.
Kuchmeister, Balthasar.	II. 62.
Kumber, Jakob.	I. 173. 176.
Kuon, Johannes.	I. 258.
Kurz, Orhmar.	I. 349. 363.

L.

Lande, de, Aloys.	II. 304.
Languet, Hubert.	I. 18. – II. 244.
Lätus, Georg.	I. 462.
Laurent, St., Bernardin Bachetel, Apt von.	I. 218. 237 u. ff. 344. 357. 362. 368 u. ff. – II. 112.
Laval, de.	II. 305.
Lavater, Joh. Rudolf.	I. 201. 216. 218 u. ff. 269. 296. 297. 435. – II. 110. 113. 161.
Lavater, Ludwig.	I. 219. 225. 296. 297. 399. – II. 192. 263.
Le Fer, Nicolas Denis.	II. 186 u. ff. 195.
Leo X, Papst.	I. 9.
Letter, Johannes.	I. 333.
Lichtenfels, Melchior von, Bischof von Basel.	I. 9.
Lieber, S. Erastus.	
Linki, Heinrich.	I. 227.
Locarnus, Benedictus. S. Benedetto.	
Lorenzo, Fra.	I. 185. 191 u. ff. 233.
Lothringen, Cardinal von.	
Loyola, Jgnaz.	I. 21.

Ludwig XII, König von Frankreich.	I. 143.
Luina, Marina.	I. 408. 428. – II. 158.
Lupetino, Baldo.	I. 35. – II. 217.
Lussi, Melchior.	I. 191. 402. 418. 453. – II. 48. 81. 95. 117. 118. 210. 267. 269. 310. 311.
Luther, Martin.	I. 8. 16. 20. 33. 34. 37. 211. – II. 55.

## M.

Madiano, Filippo. S. Campo, di, Filippo.	
Madruccio, Christoforo.	I. 40. – II. 82. 104. 111. 146. 205.
Madona, Hieronymus.	I. 145. – II. 99.
Mainardo, Agostino.	I. 43. – 47. 59. 293. 295. 439. 466. 469. – II. 19. 249. 257.
Manrica, Jsabella.	I. 10. – II. 152. 240.
Mantua, Cardinal von. S. Gonzaga, Ercole.	
Marca, Antonio.	II. 78.
Marcellius II, Papst.	II. 45. 75. S. auch Cervino, Marrcello.
Marchino, Hauptmann.	II. 79. 89.
Maria, Königinn von England.	I. 396. 457. – II. 19. 40.
Mariano, Girolamo.	I. 33. 159. U. ff.
Marino, Pagano.	II. 140.
Marot, Clément.	I. 18.
Marso, Asecanio.	I. 83. 148. 148. 266. – II. 22 u. ff. 146. 147. 272. 279.
Marti, Ambrosius.	I. 435. – II. 133. 206. 242. 242.
Martinengo, MassimilianoCelso, Gra von.	I. 31. 74. – II. 44.
Martini, Inquisitor.	II. 188.
Martiostensus, Philipp. S. Campo, di, Filippo.	
Martyr, Peter. S. Vermiglio.	
Masi, de', Bicenzo.	II. 151.
Masserano, Filiberto, Graf von.	I. 173. 176.
Masserano, Rodomonte, Graf von.	I. 173. 174. 176. 266.
Maturo, Bartolomeo.	I. 43. 159.
Maximilian, König von Böhmen, nachheriger Kaiser Maximilian II.	I. 458. – II. 115. 237. 238. 246.
Maximilian, Herzog von Mailand. S. Sforza, Maximilian.	
May, Claudius.	I. 376.
Medici, de', Caterina.	II. 244.
Medici, Cosimo, Herzog von Florenz.	I. 31. 83 u. ff. 340. 467. 470. – II. 46. 214.
Medici, de', Gianangelo.	I. 106. S. auch Pius IV, Papst.

Medici, de', Giangiacomo, Castlan von Musso, Marchese von Marignano.	I. 71. 131 u. ff. 175. 176. 340. 340. – II. 209.
Megander, Caspar.	I. 2. 159. 204.
Meggeli, Joachim.	I. 317. – II. 50.
Meggen, von, Jost.	II. 74. 83.
Melanchthon, Philipp.	I. 16. 16. 20. 39.
Mentlen, von, Bernhard.	II. 311.
Merbeglio, Pietro.	I. 44. 149. 159. 177.
Mercazio, Filippo.	II. 130.
Merenda, Caterina.	II. 44.
Merz, Jakob.	I. 110. 195.
Meyer, Laurenz.	II. 63.
Micael S. Schweyzer, Michael.	
Miles, Johannes.	I. 333. – II. 59. 61.
Molina, Baldassar.	II. 272.
Mollio, Giovanni.	I. 32. 33.
Montinus, Christoph.	II. 245.
Morone, Giovanni.	I. 10. 20. 26. 148. 158. 459. – II. 208. 210.
Morris, Richard.	II. 138.
Mülinen, von, Beat Ludwig.	II. 305. 326 u. ff.
Mülinen, von, Maria.	II. 327.
Müller, Georg.	I. 391. – II. 3. 113. 161. 169. 173. 174. 260.
Muralta, Barbara, geb. Muralta.	I. 413 u. ff. 450. – II. 26 u. ff.
Muralta, Barbara, geb. Di Bologna.	II. 345.
Muralta, Caterina.	I. 264.
Muralta, Caterina, geb. Orella.	II. 345.
Muralta, Lucia, geb. Orella.	I. 408. – II. 25. 327. 343.
Muralta, Lucia, geb. Trevana.	I. 514. – II. 343.
Muralta, Magdalena.	II. 343.
Muralto, Aloisio.	II. 343.
Muralto, Antonio Maria.	II. 25.
Muralto, Francesco, Arzt.	II. 324. 344. 345.
Muralto, Francesco, Vater von Giovanni und Gianantonio.	II. 343.
Muralto, Francesco, der Chronist.	I. 120.
Muralto, Francesco, Notar.	I. 303. 408.
Muralto, Galeazzo.	I. 157. 191. 259. 265. 279. 290. – II. 128.
Muralto, Gianantonio.	I. 450. – II. 140. 343.
Muralto, Giangiacomo.	II. 324. 345.

Muralto, Giovanni, Sohn von Francesco.	I. 192. 264. 413. 414. 447. – II. 21. 26. 142. 160. 190. 322 u. ff. 343 u. ff.
Muralto, Giovanni, Sohn von Giangiocomo.	II. 345.
Muralto, Lodovico.	II. 324 u. ff.
Muralto, Martino.	I. 189. 303. 408. 447. – II. 4. 9. 12. 13. 24. 25. 26. 27. 28. 140. 141. 153. 176. 182. 326.
Mürdi, Balthasar.	II. 97. 101. 102. 129. 313 u. ff. 318.
Musculus, Wolfgang.	I. 457.461. – II. 14. 30.
Muzio, Girolamo.	I. 74. 150.
Mykonius, Oswald.	I. 52. 230. 276. 467. 468.

## N.

Nägeli, Hans Franz.	I. 278. 359. 367. 377 u. ff. – II. 327. 329.
Navarra, Anton, König von.	II. 243. 244 u. ff.
Navarra, Jeanne d'Albret, Königin von.	II. 244.
Negro, Francesco.	I. 50. 274.
Nessi, Bartolomeo.	I. 291.
Niderhofer, Amandus.	II. 26.

## O.

Occhino, Bernardino.	I. 10. 11. 27. 32. 44. 45. 51. 74. 150. 297. – II. 6. 8. 13. 18. 19 u. ff. 29. 33. 35. 40. 41. 44. 65. 143. 152. 152. 167 u. ff. 192. 233. 252.
Odescalco, Paolo.	I. 80 u. ff. – II. 23.
Oekolampad, Johann.	I. 199.
Orbais, Nicolas de la Croir, Abt zu.	II. 274.
Orella, Chiara.	I. 175. 294. – II. 194. 343.
Orella, Lucia. S. Bellò, Lucia, und Muralta, Lucia.	
Orella, Polonia.	II. 335.
Orello, Aloisio.	I. 249. 290. – II. 27. 37. 144. 156. 159. 164. 165. 285. 335. 345. 347. 350.
Orello, Aloisio oder Gio. Aloisio.	I. 163. – II. 25.
Orello, Bartolomeo.	I. 303. – II. 31.
Orello, Batista.	I. 291. 303.
Orello, Filippo.	I. 450. – II. 32. 34. 144. 350.
Orello, Francesco Sohn von Aloisio.	II. 347 u. ff.
Orello, Francesco Paolo.	I. 195. 260 u. ff. 273. 275. 278.
Orello, Giampietro.	II. 123. 316.
Orello, Giovanni Maria. S. Orello, Melchior.	II. 347.
Orello, Giovanni Filippino.	I. 163. 240. 303. 408. – II. 110.



Orello, Girolamo.	I. 232. 237.
Orello, Goffrino.	I. 291.
Orello, Melchior.	II. 335. 338. 347. u. ff.
Orello, Paolo.	I. 195. 203. 408.
Orello, zugenannt Cataneo, Bartolomeo.	I. 449. – II. 31. 38. 151. 189. 332.
Orello, zugenannt Giangiacomo.	II. 332.

P.

Pairano, Gianantonio.	II. 148. 158.
Pallavicino, Cardinal.	I. 51.
Paravicini, Orazio.	II. 332.
Parkhurst.	I. 397. – II. 152.
Parma, Herzog von. S. Farnese.	
Parma, Margaretha, Herzoginn von.	II. 287. 288.
Paul III, Papst.	I. 8. 13. 19. 22. 24. 25. 29. 33. 37. 106. 149. – II. 83. 220.
Paul IV, Papst. II. 45 u. ff. 83 u. ff. 95. 105. 111 u. ff. 114 u. ff. 206. 208. 213. 213. 215. 217.	
Pebbia, Brüder.	II. 348.
Pebbia, Lorenzo.	II. 189. 303. 385. 348.
Pebbia, Stefano.	I. 290. 310. – II. 3. 30. 34.
Pellican, Conrad.	
	I. 53. 56. 155. 159. 161. 166 u. ff. 169. 172. 177. 183. 214. 218. – II. 24. 39. 40.
Pellizari, Brüder.	II. 295. 296.
Perano, S. Pairano.	
Perna, Pietro.	II. 178.
Pescara, Alfonso de Avalos, Marchese di. S. Vasto, del.	
Pescara, Fernando de Avalos, Marchese di.	I. 10. 141.
Pescara, Marchese von.	II. 270.
Pestalozza, Paolo.	I. 44.
Peyer im Hof, Hans Martin.	I. 458.
Pfalz, Friedrich II, Churfürst von der.	I. 208.
Pfalz, Friedrich III, Churfürst von der.	II. 242. 341.
Pfalz, Ludwig VI, Churfürst von der.	II. 34.
Pfalz, Otto Heinrich, Churfürst von der, ursprünglich Pfalzgraf zu Neuburg.	
	I. 208. 462. – II. 42.
Pfalzgraf, Wolfgang.	II. 242.
Pfister, Vincenz.	I. 378.
Pflum, Ulrich.	I. 383.
Pfyster, Jost.	I. 326. 445. 447. 450. – II. 120. 121.

Philipp II, König von England, dann von Spanien.	I. 71. 145. 146. 457. 459. – II. 22. 23. 111 u. ff. 113 u. ff. 205. 217 u. ff. 221 u. ff. 253. 255. 261. 268. 272. u. ff.
Pius IV, Papst.	II. 181. 209 u. ff. 219 u. ff. 221 u. ff. 236. 258.
Pius V, Papst.	II. 211 u. ff. 265. 266. 269.
Planta, Johann, Herr zu Rhäzüns.	II. 200. 225. 229. 230.
Planta, Thomas von, Bischof von Chur.	I. 82.
Platter, Thomas.	II. 55. 60.
Pomponazzo, Pietro.	I. 8.
Pontisella, Johann.	I. 50. 296.
Poole, Reginald.	I. 9. 20. 22. 28. 456. 458. 459.
Porro, Pietro.	II. 284. 285.
Porro, Protaso.	I. 125.
Porta, a, Beatus, Bischof von Chur.	II. 235.
Porta, Egidio.	I. 137 u. ff.
Postcolona, Bernardino.	II. 130.
Postcolona, Cristoforo.	II. 132.
Pradervan, Georg.	II. 122. 316.
Pro, a, Jakob.	I. 134. 238. 240. 241. – II. 26. 310.
Pro, Peter.	II. 310.
Provaso, di. S. Postcolona.	
Pugliano, Michele.	II. 184. 185. 186. 188.
Püntiner, Heinrich.	II. 122 u. ff.

#### Q.

Quadrio, Antonio.	II. 206. 207. 222.
Qurdrio, Marcantonio.	II. 249.
Quattrino, Domentico.	I. 121.

#### R.

Rainoldo, Arrigo.	II. 131. 230.
Rategno, Bernardo.	I. 122. 125.
Räuchlin, Hans.	II. 111.
Räuchlin, Jesajas.	I. 116. 117. 118. 297 u. ff. 301 u. ff. 308. 310. 322. 324 u. ff. 342. 359. 398 u. ff. 402. 404. 405. 406. 416. 419. 421. 424. 425. 442. 445. 449. 450. 451. – II. 24. 25. 80. 81. 95. 104 u. ff.
Ravalasca, Balthasar.	II. 302 u. ff. 307.
Reding, Georg.	II. 59. 102.
Rellican, Johannes.	I. 159.

Requesens, Aloys. S. Lande, de.	II. 304.
Reuchlin, Johann.	II. 41.
Rhenan, Beat.	II. 41.
Ritter, Lukas.	II. 60. 116.
Riva, di, Francesco.	II. 352.
Riverta, Ottviano.	I. 334. 345. 362. 401. 408 u. ff. 440. – II. 11. 47. 58. 75. 80. 82. 95. 100. 116. 117. 122. 129. 146.
Rizzio, Gianangelo.	I. 83 u. ff. – II. 22 u. ff. 222 u. ff. 236.
Robasciotto, Robazotto, Bartolomeo.	I. 245. – II. 302.
Roggiolo, Battista.	I. 449. – II. 3. 34.
Roll, Walter.	I. 113. 158. 181. 186. 239. 242. 243. 256. 257 u. ff. 272 u. ff. 275. 276. 284. 286. 312. 321. 404. 416. 421. 424. 445. 446. 447. – II. 25. 28. 54. 80 u. ff. 97 u. ff. 107. 128. 267. 287.
Ronca, Bona.	I. 156.
Ronca, Guido.	I. 294. – II. 29.
Ronca, Marina. S. Luina, Marina.	
Ronco, Battista.	II. 342.
Ronco, Lodovico.	I. 188. 192 u. ff. 266. 285. 290. 293. 295. 303. 337. 408. 426. – II. 12. 13. 44. 132. 144. 156. 158. 164. 165. 335. 338. 341 u. ff.
Rosalin, Hans.	II. 352.
Rosalina, Caterina.	I. 414. 416.
Rosalina, Domenica.	II. 32.
Rosalina, Elisabeta.	I. 416. 449. – II. 25. 32. 159.
Rosalino, Ambrosio. S. Gianambrosio.	
Rosalino, Bernardino.	II. 25. 159.
Rosalino, Bernardino.	II. 25. 159.
Rosalino, Gianambrosio.	I. 249. – II. 140. 153. 157. 159. 160.
Rosalino, Gianantonio.	– II. 141. 164.
Rosino, Arberto.	I. 334. 346.
Rosso, Antonio.	II. 160.
Rosso, Battista.	II. 121.
Röust, Diethelm.	I. 2.
Rudolf, Jakob.	II. 318.
Rüegger, Jakob.	I. 227. – II. 18. 63.
Rychmuth, Gilg.	I. 132.
S.	
Sacco, Giacomino.	II. 2.

Sachsen, August, Churfürst von.	I. 208. – II. 246. 301.
Sachsen, Friedrich der Weise, Churfürst von.	I. 37.
Sachsen, Johann Friedrich, Churfürst von.	I. 34. 216. 460. 466.
Sachsen, Moritz, Churfürst von.	I. 76. 529.
Sadoletto, Giacomo.	I. 9. 20. 26.
Sala, della, Alberto.	I. 93.
Salis, von, Baptista.	II. 298.
Salis, von, Friedrich.	II. 180. 215.
Salis, von, Herrcules.	I. 44. – II. 180. 205. 216. 237. 300.
Salis, von, Rudolf.	II. 180. 237.
Saluz, Philipp.	I. 49. 60. 62. 63. 65. 66. 67 u. ff. 78. 80. 81. 85. 171. 209. 214. 295. 297. 340. 398. 436. 438. – II. 1. 2. 7. 29. 78. 79. 132. 134. 180. 200. 201. 204. 228. 230. 237. 239. 248. 249. 251. 253. 256. 261. 262.
Santerenziano, Giulio.	I. 29. – II. 42. 43. 44.
Savoyen, Emanuel Philibert, Herzog von. I.	I. 454. – II. 208.
Sax, von, Christian.	II. 207. 227.
Schal, Niklaus.	II. 310.
Schärtlin, von Burtenbach, Sebastian.	I. 468.
Shauenburg, Gräfinn von.	I. 209.
Schauenstein, Rudolf von.	II. 207.
Schenk, Burkard.	I. 37.
Scheuber, Conrad.	II. 117.
Schicker, Jakob.	I. 402. 418.
Schinner, Matthäus.	I. 127.
Schmid, Andreas.	II. 63. 173.
Schönbrunner, Georg.	II. 81. 95. 117. 159.
Schorno, Christoph.	I. 402. 418. – II. 81. 95. 210.
Schorno, Hieronymus.	I. 402.
Schuler, Paul.	I. 349. 363. – II. 28.
Schwyzzer, Micael.	I. 54. 266. 529. – II. 254.
Scrofeo, Fra Modesto.	I. 41.
Seiler, Geryon.	I. 459. 462.
Serravalle, Giacomo.	II. 297.
Servet, Michael.	I. 45. – II. 19.
Sessa, Gonzalez Fernando de Cordova, Herzog von.	II. 158. 205. 220. 270. 301.
Sforza, von Mailand.	II. 220.
Sforza, Franz, Herzog von Mailand.	I. 141. 146.
Sforza, Maximilian, Herzog von Mailand.	I. 88.

Sforza, Ottaviano.	I. 346.
Sigismund II, König von Polen.	I. 208.
Silenen, Caspar von.	II. 116.
Silva, Ruy Gomez de.	I. 146. – II. 114.
Simmler, Josias.	I. 266. – II. 24. 44. 175. 192.
Sixtus IV, Papst.	I. 31.
Sonnenberg, Wendel.	I. 402. 404. 418. 419.
Sonvico, di, Antonio.	I. 427. – II. 134. 136. 226. 226.
Sonvico, di, Giampietro.	II. 134. 233. 233. 234.
Soranzo, Bittor.	I. 35.
Sozzini, Lelio.	I. 46. 53. 470. 471. 474. – II. 13. 152. 166.
Spalatin, Georg.	I. 37.
Speziano, Bischof von Novara.	II. 320.
Spiera, Francesco.	I. 40.
Sproß, Hans Heinrich.	I. 271. 359. – II. 271.
Sprüngli, Bernhard.	I. 391. – II. 22. 31. 124. 261. 325.
Stadler, Caspar.	I. 107.
Stadler, Georg.	II. 347.
Stapfer, Jakob.	I. 219.
Steiger, Hans.	I. 394.
Steiger, Johannes, Schultheiß von Bern.	I. 379.
Stierli, Caspar.	I. 257. 260 u. ff. 272 u. ff. 276. 279. 300. 301. 302.
Stierli, Conrad.	I. 300.
Stockalper, Peter.	II. 55.
Stoppano, Giampietro.	I. 121.
Storozzi, Pietro.	I. 340. – II. 83. 208.
Storozzo, S. Campo, di, Filippo.	
Stumpf, Johannes.	I. 206. 311.
Stumpf, Johann Rudolf.	I. 206. 311. 354. 400. – II. 67.
Sturm, Johann.	I. 31.
Sulzer, Simon.	I. 229. 230. 276. 379. 402. 459. – II. 16
Suri, Urs.	I. 181.

T.

Teligni, von.	II. 305.
Terranova, Carlo di.	II. 268. 269.
Thomann, Caspar.	II. 348.
Thomann, Hans, genannt Aeberli.	I. 394.

Meyer, Ferdinand, *Die evangelische Gemeinde in Locarno, ihre Auswanderung nach Zürich und ihre weitem Schicksale*, 2 Bde., Zürich, 1836 の巻末索引について (其の1)

Thörig, Sebastian.	II. 50.
Tillier, Anton.	II. 327. 328.
Toledo, Cardinal von.	II. 46.
Toledo, Pedro de.	I. 10. 27.
Toma, Chiara.	I. 416.
Toma, Giammaria.	II. 142.
Torre, della, Pietro.	I. 109. 195.
Torriano, Giampaolo.	I. 250.
Travers, Johann.	I. 64. 67. 73. 86. 343.
Trevano, Alberto.	II. 12. 21. 140. 158. 164. 341.
Tridi, Brüder.	II. 152. 156. 275. 277. 284. 289. u. ff.
Trient, Cardinal von. S. Madruccio.	
Trinità, della, Graf.	II. 212.
Trivulzio, Antonio.	I. 105.
Trivulzio, Cesare.	I. 105. 157.
Trivulzio, Scaramuza.	I. 105.
Trontano. S. Viscardi.	
Tscharner, Johannes.	II. 133. 180. 259.
Tschudi, Aegidius.	I. 180. 292. 317. 318. 320. 349. 353. 363. 402. 447. – II. 50.
Tschudi, Valentin.	I. 197.

#### U.

Ugoni, Gianandrea de'.	I. 470. 471. 474.
Ulm, von, Gregor.	I. 454.
Ulm, von, Herren auf Grießenberg.	II. 336.
Ulrich, Heini.	II. 149.

#### V.

Vadian, Joachim.	I. 51. 52. 225. 467. 468. 468.
Valdez, Juan.	I. 10. 13. 14. 17. 27. 45.
Vasto, Alfonso de Avalos, Marchese del.	I. 10. 145. 146. 149. 150. 174. 175.
Venetscher, Peter.	II. 55.
Vergerio, Aurelio.	I. 37. – II. 254. 255.
Vergerio, Giambattista.	I. 39.
Vergerio, Pierpaolo.	I. 36. 48. 50. 51 u. ff. 67 u. ff. 77. 78. 79 u. ff. 154. 159. 182. 248. 256. 265. 266. 273. 295. 457. 459. 460. 461. – II. 8 u. ff. 18. 23. 24. 42. 115. 166. 180. 236. u. ff.

Vermiglio, Pietro Matire.

I. 10. 13. 28. 32. 45. – II. 19. 39 u. ff. 143. 152. 164. 166. 178. 213. 341.

Verzasca, Bartolomeo. I. Bartolomeo. I. 172. – II. 18. 27. 28. 140. 145. 146. 156. 157. 188.

Verzasca, Bernhard. II. 158.

Verzasca, David. II. 158.

Verzasca, Francesco. II. 37. 135. 140. 326.

Verzasca, Gianantonio. I. 172. – II. 140. 145. 335. 343.

Verzasca, Magdalena, geb. Muralta. II. 343.

Verzasca, Pauca. II. 157.

Vieilleeville, Marshall von. II. 259.

Viret, Pierre. I. 74. 453. – II. 15.

Viscardi, Gianantonio, genannt Trontano.

I. 264. 290. 427. – II. 225. 226. 230. 231. 232. 234. 235.

Vogt, Simprecht. I. 227. 381. 455. 458.

Volpi, Giovanni, Bischof von Como. II. 210. 221. 258.

## W.

Waldburg, Katharina, Erbtruchsessin von. I. 209.

Walter, S. Gwalter.

Watt, von. S. Vadian.

Wegmann, Johannes, der Oheim. I. 130.

Wegmann, Johannes, der Neffe. I. 299. 302. – II. 27.

Wegmann, Johannes, dessen Soh. II. 168. 170. 336.

Weingarten, von, Wolfgang. I. 359. 367. 377 u. ff.

Weißenburg, Wolfgang. II. 178.

Welser, Bartholomäus. I. 93.

Werdmüller, Jakob. I. 126 u. ff. 219. – II. 113.

Westphal, Joachim. II. 18. 30. 143. 182.

Wirri, Heinrich. I. 430.

Wirth, Christian. I. 213.

Wirz, Heinrich. I. 454.

Wirz, Jakob. I. 430.

Wirz, Niklaus.

I. 113. 183 u. ff. 191 u. ff. 232. 235. 236. 237. 238. 239. 241. 267. 454. – II. 122.

Wolf, Johannes. I. 349. – II. 167. 170.

Württemberg, Christoph, Herzog von. I. 79. 86. 87. 208. 295. 458. 460. 461. –

II. 18. 110. 115. 236. 237. 238. 240. 241 u. ff. 323.

Württemberg, Ulrich, Herzog von. I. 19. 217. 223.

Meyer, Ferdinand, *Die evangelische Gemeinde in Locarno, ihre Auswanderung nach Zürich und ihre weitem Schicksale*, 2 Bde., Zürich, 1836 の巻末索引について (其の1)

Würsch, Georg.	I. 257.
Wyß, Hans.	I. 257.
Wyßembach, zum, Heinrich.	I. 102. 108.

## Z.

Zanchi, Girolamo.	I. 31. – II. 180. 191. 257. 345.
Zanino, Girolamo.	II. 282. 284. 285. 286.
Zanino, Giuseppe.	II. 276 u. ff. 282. 283. 287.
Zanino, Paolo.	II. 38. 130. 141. 151. 286.
Zanino, Vangelista.	
	II. 26. 39. 104. 141. 144. 145. 156. 165. 189. 274 u. ff. 311. 335 u. ff. 343.
Zaretto, Giangiacomo.	II. 156. 165. 335.
Ziegler, Heinrich.	II. 333.
Zoio, Toma.	I. 250.
Zwingli, Ulrich, der Vater.	I. 16. 128. 137 u. ff. 143. 198. 199. 203. 204. 221. 389. – II. 55.
Zwingli, Ulrich der Sohn.	II. 65. 192.

## Berichtigungen.

### 訂正

- S. 32. Z. 8. statt Loearno I. Locarno.  
S. 39. Z. 13. statt asel I. Basel.  
S. 120. Anm. 2. Z. 17. statt zffressen I. gffressen.  
S. 148. Z. 14. statt 137 I. 147 Personen. – Man vergleiche damit S. 375. Anm. 26.  
S. 152. Anm. 112. Watt, Leinwatt ist Leinewand; Wattmann also ein Leinwandhändler oder Leinwandfabrikant.  
S. 296. Z. 11. statt den Maloia I. die Maloja.  
S. 373. Z. 7. statt filio I. filio.

一例をあげると、

第2巻のBeilagenの25.は1556年9月9日の時点での、1555年3月18日のロカルノからの亡命者の第一陣と1555年5月12日の第二陣のロカルノ人の職業別社会的構成についてのチューリヒ当局の「外国人調書」であって以下の記載がある。

Herr Martinus Muraltus	法学博士	手工業者	生業従事
Her Thaddeus Dunus			医学博士
Joannes Beccaria			牧師
Lodouicus Aruncus			金利生活者
Albertus Treuenus		生業不従事	裕福
Baptista de Babis		生業不従事	裕福



Jo.Ambrosius Rosalinus	生業不従事 裕福
Franciscus Verzascus	生業不従事 裕福
Joannes Muraltus	外科医
Joannes Ant. Rosalinus	ピロード織工
Aloysius Orellus	小売店
Andreas Ceuius	ミラノを中心に交易に従事、多くの商品を仕入
Euangelista Zaninus	絹織物業
Paris Aplanus	ピロード織工
Jacobus Ciaretus	麻布
Joannes Antonius Peyranus	手工業
Stefanus der Fischer	手工業
Guarnerius Castionus	活動的
Joannes Ant. Muraltus	事業活動はしていない
Philippus Orellus	古物商人
Baptista Rozolus	製本職人
Philippus Applonus	仕立て屋
Franciscus Aplanus	毛皮職人 手工業者 麻布
Antonius und Bartolomäus Berzascus	小売商人 同じ類の雑貨をミラノから輸入

26. は、1557年8月?日の「外国人の職業別調書」

Ludouicus Runcus	金の売買 ピロード織
Anthonius Marius	
Gwarnerius Castelliacus	
Andreas Zepheus	

以上4名は、小売商人、製革工、袋物師、毛皮職人、仕立屋  
理髪師兼外科医を含む ベネチア、ミラノと交易

Andreas Zepherus	毛織物 羅紗
Ludwig Runcus	金の売買
Jacobus Zarethus	手工業者
Anthonius Vercascus	小売業
Bartholomeus Vercascus	小売業
Barttholomes Orellus	鞣皮工
Aloysius Orell	袋物師
Bernhard Rossolus	製本工
Franss Alpertinus	貧困
Philip Martiost	貧困
D. Martin Muralt	ピロード織業
Annthoni Rosalin	ピロード織業

Meyer, Ferdinand, *Die evangelische Gemeinde in Locarno, ihre Auswanderung nach Zürich und ihre weitem Schicksale*, 2 Bde., Zürich, 1836 の巻末索引について (其の1)

Euangelista Zeninus	絹織物	ビロード
Anthoni Pagieran	手工業者	製革工 鞣皮業
Franciscus Michael a planus	手工業者	毛皮職人 ツヴィングリの食客
Philip Orell	古物商人	手工業者 革、鞣革 ミラノと交易
Herr ThaddeusThunus		侍医
Herr Johans Muraltus		外科医

(Original: Zürcherische Staatsacten.)  
となっている。